

数学

名古屋大学 文学部、教育学部、法学部、経済学部、

情報学部（人間・社会情報学科）（前期） 1 / 1

<全体分析>

試験時間

90分

解答問題数

3題

解答形式

全問論述式.

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

出題の特徴や昨年との変更点

全問小設問によって構成されている.

その他トピックス

4年連続で数学Bからの出題がなかった.

数学IIの微分・積分からの出題がなかった.

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
1	複素数と方程式	数学II	pとqの連立方程式を、対称式の変形を用いて誘導に沿って解く問題.	易
2	図形と方程式	数学II	放物線の頂点と原点を通る直線と、放物線との交点に関する問題.	やや易
3	確率	数学A	コインを投げて数直線上を点が移動するときの、点の座標で定まる得点に関する問題.	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

今年の文科系の問題は、取り組みやすいものが多めであった。これらの問題を確実に得点することが大切である。まずは、典型的な問題を必ず解けるようにしよう。その上で、過去の入試問題を十分に研究し、問題を正しく読み取る力、複雑な状況を整理し的確に計算する力をつけておこう。

近年、文科系では数列やベクトルからの出題がない年が続いているが、油断せずに対策をしておくべきであろう。